

ジャンル	子ども・教育	日本語学習	医療・福祉	労働	災害対策	意識啓発 地域づくり	推進体制の 整備	その他
事業名	ブラジル移住 100 周年記念映像制作事業							
団体名	財団法人愛知県国際交流協会							

\*\*\*\*\* 事業のポイント \*\*\*\*\*

「日本人の顔してるのに、何で日本語が話せないの？」そんなことばに傷つき、「自分は何人なんだろう？」と悩むブラジル国籍のこどもたち。愛知県は全国でも日系ブラジル人の数が最も多い県であり、特に日本の学校になじめないこどもたちの状況が大きな課題となっている。本プロジェクトでは、特にこどもたちの視線で、日系ブラジル人の歴史的背景に焦点をあてるという少し違ったアプローチで「多文化共生社会」を考えてみた。

助成年度 区分	平成 20 年度 地域国際化協会等先導的施策支援事業	事業総額	1,948 千円
------------	----------------------------	------	----------

事業の内容、成果等

(1) 事業実施に至る経緯

愛知県は全国でも日系ブラジル人の数が最も多い県である。そうした状況を踏まえ、「多文化共生社会」を実現するための様々な事業が展開されているが、彼らがなぜ日本に来たのか、その歴史的背景を知る人は意外と少ない。「なぜブラジルに日系人が住んでいるのか」「なぜ日本にこんなに多くの日系ブラジル人が働きに来ているのか」を考えることはほとんどなく、経済的低迷が続く中、ともすれば、日系ブラジル人に対する風当たりが強くなったり、偏見や思いこみによるトラブルが生じたりしている。

移民の歴史をたどれば、日本にも経済的に苦しい時代があったこと、ブラジルで異文化にとまどいながらも日本人としての誇りを持って暮らしていた日系人がいたこと、その日本人を受け入れたブラジル人の思い、そして今日本に働きに来ている日系ブラジル人の思いなど、様々なことを知ることができる。

ブラジル移住 100 周年を機に、そうした歴史を学ぶことにより、日系ブラジル人に対する見方、考え方、理解を深め、「日本人」であるということはいったいどういうことなのか、「多文化共生」とは何なのか、映像制作のプロセスの中で、日系ブラジル人と一緒に考えるとともに、こどもたちにも「多文化共生」について考えてもらうきっかけづくりとして本事業を実施した。

(2) 事業目的

- こどもたちにも理解しやすい映像を制作することにより、日本人のこどもたちにはブラジル人に親近感をもってもらい、ブラジル国籍のこどもたちには、誇りと自信を持ってもらう。
- 映像制作のプロセスの中で、日本人とブラジル人が一緒にブラジル移住の歴史を学ぶことにより、日系ブラジル人に対する見方、考え方を深め、「日本人」であるということはいったいどういうことなのか、日系人が日本で働くということはどういうことなのか、「多文化共生」とは何なのかを一緒に考えるきっかけをつくる。
- 様々な多文化共生事業の導入として映像を上映することにより、より多くの人々に、外国籍住民に対する理解を深めてもらうとともに、多文化共生社会実現について考えてもらう。

### (3) 実施内容

#### ①映像制作

当地域に住むブラジル人、地域で多文化共生活動を行っている日本人をアドバイザーに企画・取材をし、多文化共生につながる映像を制作した。

#### ○ 映像「なぜ、ぼくはニホンに来たの？」

時間：約6分

内容：日本に住むブラジル人の少年が、「ファビオは何で日本に来たの？」という友達からの問いかけをきっかけに、自分のルーツを両親に聞く。

ストーリー仕立てで、ブラジル移住の歴史を紹介しながら、現在の地域の状況、ブラジルの状況にも触れ、国際交流、多文化共生などについて考えるきっかけづくりになるような内容。

作成枚数：DVD10枚



DVDのジャケット

#### ○ 映像の使用方法

当協会の事業で活用するほか、市町村、学校、ブラジル人学校等へ貸し出し

#### ② 映像の活用

#### ○ ワールド・コラボ・フェスタ2008（来場者数：64,000人）

10月25日（土）15：45～ オアシス21 ワールドステージ

日本ブラジル交流年記念プログラム「未来への架け橋」で上映

10月26日（日）12：00～13：00 セミナースペース

「国際交流、はじめの1歩」の中で紹介しながら地域の現状を紹介

#### ○ 多文化ソーシャルワーカー養成講座（財団法人愛知県国際交流協会主催）

12月17日 受講生18名

#### ○ あいち国際プラザ 交流広場で上映



ワールド・コラボ・フェスタ2008  
ワールドステージ



ワールド・コラボ・フェスタ2008  
セミナースペース



多文化共生ソーシャルワーカー養成講座

#### (4) 工夫した点、大切にした点

- 歴史の紹介にとどまらないようにした。今回の事業のねらいは、歴史を学ぶことではなく、歴史を通して、現在を知り、将来的な地域づくりにつなげていくことだということに留意した。
- 企画、編集、また出演者等にもできるだけ地域住民を巻き込むようにした。
- 課題に焦点をあてるのではなく、前向きな視点で多文化共生を考えられるような内容にした。
- メッセージを伝えるというよりは、見た人一人ひとりが考えてもらえるようなストーリーにした。
- 子どもたちに見てもらうことを念頭に、短い時間でわかりやすくまとめるよう工夫した。

#### (5) 成果

ブラジル移住のことは何となく知っていても具体的にどういう状況だったのか知らない人が多い中、6分という短い映像ではあるが、視覚的にも把握できるものが作成できたことは、今後、多文化共生社会実現のための取り組みを進めていく上でとても有意義であった。県民には、日系ブラジル人やその歴史について興味関心を持ってもらえたと思うし、在住のブラジル人には誇りを持ってもらえたと思う。何よりも、様々な多文化共生事業に取り組む担当者に見てもらうことができ、自分たちが取り組んでいる事業の意義を認識してもらえたことは、大きな成果であった。

(6) 今後の展開と展望、課題等

今回作成した映像をいかに多くの人々に見てもらい、活用していくかが今後の課題である。

特に、今回の映像はあくまできっかけ作りのものなので、ここからいかに「多文化共生事業」につなげていくかも考えていきたい。例えば、学校等の国際理解教育の中などで活用したり、日本語教室の教材などとして活用していきたいと考えている。また、できればポルトガル語版も作成し、日本語が理解できない地域の外国籍住民にもみてもらい、地域に溶け込むきっかけにしていきたい。さらに、今後も機会をとらえて、多文化共生事業に取り組む担当者や企業の方たちなど、多くの方たちに見てもらいたいと考えている。